**平成28年度第２回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会緑整備部会記録《要旨》**

○日時　　平成28年12月12日（月）15：００～１７：００

○場所　　万博記念公園事務所

○出席委員等　 中瀬部会長、尼﨑委員、中村委員、服部委員、深町委員、

山本委員

○事務局　　府民文化部副理事　ほか

＜自然文化園の森の育成について　説明＞

＜質疑応答＞

**尼﨑委員**

森の概況説明資料について、密生林、疎生林、散閑林の考え方と樹種構成の分け方については全く別のものであるので、今回の計画内におけるそれぞれの用語について、明確に定義を整理したうえで議論を進めること。

**深町委員**

初期段階の植栽データがあると、現状の樹種構成について、当初から植栽したのか遷移の中で入ってきたのかが整理できる。

どこの場所に、どういう自然資源があり、どういうふうなサイクルで、何のために使っていくかということを目的がわかるような形で提示していくことが大事。

生物多様性の向上とあるが、何種類の動植物がどこにどうしているのかというような、一般の方に分かるようなまとめ方をした方がよい。

**服部委員**

階層構造について、各階層の割合やどんな植物があるのか調べれば、自然林と比較して、どの程度未発達なのかが分かる。今は林冠木だけを注目して調査しているが、全体をもう少し調査した方がよい。

　いくらギャップを作っても森の多様性は高くならない。多様な植物や林床性の植栽をしないとギャップをつくっても意味がない。

　混交林を目指すと間違いなく照葉樹林になってしまうので、はっきり落葉樹林としておいたほうが良い。

　種の供給構造をつくらないと多様性は高まっていかない。種の供給を促進するには、この樹林帯の中に３haに1箇所くらい核をつくって集中的に植えて、そこから鳥に運ばせるということをすれば森全体へと広がるのではないか。

**中村委員**

これまで万博公園においてギャップをつくる際は、埋土種子を期待し、周辺の北摂の山の土の撒きだしを行っていた。一部植栽に頼るところがあるだろうが、なるべく自然のプロセスというものを使いながら行うことが必要かと思う。

将来ビジョンの説明の中で「地球環境保全・再生に貢献する公園」とあるが、地球環境保全に直接的に貢献するということは面積的にもかなり厳しいので、もう少し丁寧に、地球環境保全や再生が学習できる公園として貢献するというような、人の利用を解して貢献するとすればいいのではないか。また、取組内容として水系の保全とあるが、万博公園の中の水系の保全と、地球環境に対する水系は別問題と思う。

また、先ほどの樹林地の更新の話については、個別に毎木調査の結果などを使い、今利用している動植物に影響が少なくて、現状の樹木を使いながら更新ができる、実際に園内の中で実現可能性のある場所というのを考えていくのも必要であると思う。

**尼﨑委員**

今回の件については、次の課題として人がどう関わっていくかというのがものすごく重要であると思うので、その辺のところをしっかりとして頂ければと思う。

**服部委員**

もともと構造がいびつな状況から始まっている場合は、早期に多様な森を作ることを目的とするのであれば、やはり人間の手を加えないとできないと強く感じる。

**山本委員**

生物多様性を高めるには、コアの部分で高めて行くのも良いが、森のエリアだけで考えるのではなく、万博公園全体で考えていくべき。コアな部分と全体、さらにその周辺の部分まで特にコア部分として高めていく部分があっても良い。

　**中村委員**

せっかく人の手で植えて、長い時間が経過している場所であるので、それが今後どのようになるのかを検証する場所として部分的に放置林のまま置いておくのも必要だと思う。

　**中瀬部会長**

　　生物多様性の話は温暖化の話がどこから出てきたかという、社会的な我々の環境に関する潮流というのを入れないといけない。資料の中で、何でも多様と表現しているが、整理したほうがよい。

＜日本庭園の新たな魅力創出について　説明＞

＜質疑応答＞

**中村委員**

八景について現在の課題を示しているが、それぞれの景のコンセプトや、どこに問題があるかを示してほしい。勉強しながら、時代背景が分かるような方法も重要ではないか。

八景の名称は季語を入れると、季節を限定するとその季節以外は訪れない可能性があるため、季語はあまり入れない方がいいのではないか。

春のモデルコースで、梅、桜、つつじをあげているが、これらはいっぺんに花を見ることはできない。もう少しそれぞれの季節の見どころに応じて時間やルートを丁寧に検討すべきではないか。

**中瀬部会長**

　　ベンチのデザイン、素材、配置をきちんと考えてほしい。八景全体を通して考えて、どのような配置すべきかを決めてほしい。

　　バリアフリーを考えるのであれば、ただ段差をなくす、という視点でのみ考えるのではなく日本庭園の中でのバリアフリーをぜひ考えてほしい。

**事務局**

　　バリアフリーについては基本的に、景に影響がない所で出来る所はしていこうと考えている。前回にご意見頂いている通り、それ以外で景を見せる新たな魅力として、中をうまく通っていくようなアクセスルートをつけられないかと考えている。

**中瀬部会長**

　　モデルコースも、子供連れ向けのコースやインバウンド用のコースなど、もっと味付けのあるコースがあってもいいのではないか。

**尼﨑委員**

　　モデルコースにはショートカットが必要。子供やお年寄りに配慮が組み込まれているような仕掛けが必要。

**深町委員**

　　八景が、一つ一つ独立して断片的に見せるように感じてしまう。一つ一つより、日本庭園全体として、どう見せるのかもあった方が分かりやすい。万博の日本庭園全体の像を出来るだけ分かりやすくつかめるような説明がほしい。

**事務局**

　　日本庭園は広く、一度に全て見て頂くのは難しいため、入口の部分で全体のイメージをつかんでいただくものが必要と考えている。万博記念公園の日本庭園とは、「唯一日本の古くから現代までを一度に見られる日本庭園」という部分が売りであるため、その手法として、ARやQRを導入しながら見せ方を検討したい。

**山本委員**

日本庭園の見せる場所を今ある視点から変えようという試みは良いと思う。例えば心字池に舟を浮かべて池の中から日本庭園を見せるというのなどは非常に面白いのではないか。

**尼﨑委員**

　　作庭当時の歴史観と今の日本庭園の歴史観は変わっているので、日本庭園の魅力を知ってもらうという視点で、うまく歴史観を伝える工夫が必要。

**深町委員**

　　出来上がった庭を楽しんでもらうのもいいが、表に見えているものを支えている技術や、日本独特のものの見方を体験できる仕掛けがあるとよりいいのではないか。

**事務局**

　　松の緑摘みも公開しているが、そのような取組みもどんどん広げていけたらなと思います。

＜閉会＞